

国内留学で得られたもの

名古屋第一赤十字病院 整形外科 大塚純子

研修医時代に手外科分野に興味を持ったことから、整形外科の道に進みました。卒後 7～8 年目で今後の進路について悩んでいる時に、もっと他の手外科の施設でも勉強したいと思い立ち、国内留学を決めました。名古屋大学の整形外科に入局していましたので、手の外科学講座もあり、何で他の施設に行くの？とよく言われましたが、旅立ちました。

半年間の新潟手外科研究所病院での研修後、2016 年から埼玉手外科研究所で、当初 1 年の予定を延長して、2 年研修しました。手外科フェローとして働き、給料は日給制、1 週間に 1 回の当直と週に 1 日他施設での整形外科外来バイトなどで週 6～7 日働きました。仕事の内容としては週 3 回午前中外来、その他、手術執刀・助手、救急の対応です。術前のカンファレンス、抄読会があり、手外科学会での発表は必須でした。ネズミのお世話をしながら、血管縫合の練習なども可能でした。当時は、形成外科と整形外科各々 2 名の手外科専門医の先生がおり、また同年代の手外科フェローが私を含めて 3 人、たまに海外からの留学生もいるという大所帯でした。以前は経験することが少なかった有茎皮弁や遊離皮弁を始め、形成的な処置や手術、また切断指などの救急外傷も多く経験しました。手外科の先生はもちろん、外来、手術室、病棟スタッフの雰囲気はよく、あっという間の 2 年間でした。その後、何とか名古屋に戻ることができ、手外科専門医も取得して、手外科医として仕事をしています。さまざまな医局の事情があり、国内留学は容易ではないかと思いますが、機会があるならばおすすめしたいと思います。多くの手外科の先生の手術を学べたことは私にとって財産であり、出会った多くの先生やスタッフの方々に感謝しています。



オペ室にて



カンファランス